

## 8月例会 議事録 (2019年)

開催日：2019年8月21日(水)

出席者：KH、NI、FH、HS、MH、SK、YT

資料：「交流と技術による地域貢献」 中村 勲

・・・・・・議事録・・・・・・

### 1. 「交流と技術による地域貢献」について

- 1) NIさんが、雑誌「道路・2019年2月号」の記事を読み上げて説明した。
- 2) 筆者は、本州四国連絡高速道路(株) 企画部長 進藤 崇氏である。
- 3) 瀬戸内地域では、DMOによる新たな観光需要の創出を進めている。
- 4) DMOとは、Destination Management Organization 地域の観光地により多くの人やお金を呼び込むための組織(法人)である。
- 5) 米紙ニューヨーク・タイムズが、2019年に行くべき世界の旅行先に「瀬戸内の島々」を選んだ。
- 6) 昭和45年に本州四国連絡橋公団が設立された。
- 7) 昭和54年に西瀬戸自動車道の「大三島橋」が完成し、昭和63年に全線開通した。平成10年に「明石海峡大橋」が完成し神戸淡路鳴門自動車道が開通。平成11年に「来島海峡大橋」等が完成し、西瀬戸自動車道(しまなみ海道)が開通した。
- 8) 2019年は、3ルート開通20周年の大きな節目となる。
- 9) 四国・本週間の貨物自動車の流れは拡大している。商用車プローブデータから換算すると、3ルート共に観測値で1,000トリップ(日平均貨物自動車830台/日)の流れが確認される。
- 10) さらに、人の往来も拡大し、日常化している。バスは375便/日が運航されている。
- 11) 本州四国連絡高速道路は、南海トラフ地震などの際が発生時には、災害派遣医療チーム(DMAT)・警察・自衛隊・消防・国交省等の緊急輸送ルートとなっている。
- 12) 大規模地震を想定した、橋梁の耐震性能の向上を図る事業を進めている。明石海峡大橋は完了。
- 13) 地域と連携して瀬戸内地域の活性化、観光振興の取組みの地域貢献を進めている。
- 14) 長大橋の維持管理のためのアセットマネジメントによって、効率的・経済的な維持管理を目指している。
- 15) 「海外インフラ展開法」に基づき、蓄積してきた長大橋技術を、民間事業者の海外展開の支援に役立てる。

<その他>

- 16) 福岡・北九州都市高速道路の通行台数は、約28万台/日であり、首都高速の3割、阪神高速の4割、名古屋高速の8割、広島高速の40割である。全国比・九州一割経済よりも多い。

### 2. 次回の手配

- 1) 9/25(第4水曜日)14時から。
- 2) テーマを、各自持参して下さい。

以上

# 交流と技術による地域貢献

本州四国連絡高速道路 3 ルート開通の節目を迎えて



**進藤 崇**

SHINDO Takashi

本州四国連絡高速道路株式会社  
企画部長

Destination Management Organization

DMO: 地域の観光地を多くの人やお金と口をつたえつた組織(法人)

瀬戸内地域では瀬戸内国際芸術祭、大阪万国博覧会、DMOによる新たな観光需要の創出など様々な取り組みが進められている。米紙ニューヨーク・タイムズが2019年に行くべき世界の旅行先52カ所の第7位に「瀬戸内の島々」を選んだ。3ルート開通20周年を迎え、瀬戸内地域の課題と取り組みを共有し、地域交流を促し、また、瀬戸内の景観形成で培ってきた地域とのつながりと技術を活かし、愛着と誇りのもてる地域づくりに貢献する企業を目指す当社の取り組みを紹介する。

速道路ネットワークの拡大により流通形態が確立されたことから平成29年には8倍を超える約1,650店まで出店が進んでいる。また、これらの物流の進展により、坂出インターチェンジ(IC)・坂出北IC周辺の香川県坂出市、宇多津町や早島ICのある岡山県早島町では、物流のクロスポイントになったことから、運輸業などの物流関連施設の立地が相次いでいる。

<日平均貨物自動車日>  
 $1,000 \div 30 \times \frac{100}{4} \div 830 \text{台/日}$

凡例	
—	1～200 トリップ未満
—	200～500 トリップ未満
—	500～1,000 トリップ未満
—	1,000 トリップ以上



図-1 本州と四国を渡る貨物自動車の流れ  
(商用車プローブデータサービス使用)

## はじめに

昭和30年の宇高連絡船「紫雲丸」事故(死者168人)などを契機に、昭和45年に本州四国連絡橋公団が設立され、本州四国連絡橋の本格的な調査・建設が始まった。昭和54年に西瀬戸自動車道の大三島橋が初めて供用し、昭和63年には瀬戸中央自動車道が全線開通した。平成10年には、吊橋として世界一の明石海峡大橋が完成し神戸淡路鳴門自動車道が全通、翌平成11年には多々羅大橋、来島海峡大橋などの完成により西瀬戸自動車道が開通し、本州と四国が3つのルートで結ばれた。昨年4月には神戸淡路鳴門自動車道全通20周年、瀬戸中央自動車道全通30周年を迎え、さらに本年5月には西瀬戸自動車道が開通20周年を迎え、3ルート開通20周年の節目となる。

## 1. 交流の拡大

四国を発着する貨物自動車の流れは、首都圏、中部圏、近畿圏をはじめとして本州、九州の広範囲に渡っている。これにより、LED製品、今治タオルなどの工業製品の原材料調達や出荷が促進され、真鯛、プロッコリー、タマネギ、レモン、ミョウガなどの農水産品が、大都市圏の市場でのシェアを伸ばしており、四国経済に不可欠なものとなっている。

昭和63年当時、四国内の「コンビニエンスストア」は各県庁所在地都市を中心に約200店の出店であったが、高

一方、人の往来も拡大、日常化してきている。高速バスの運行は、四国4県と大阪・神戸とを結ぶ路線を中心に、往復375便/日が運行されており、3ルートが開通した平成11年度の往復163便/日に比べ2.3倍に増加した。特に、神戸淡路鳴門自動車道経由の便は、往復313便/日で広域的な交流が活発になっている。

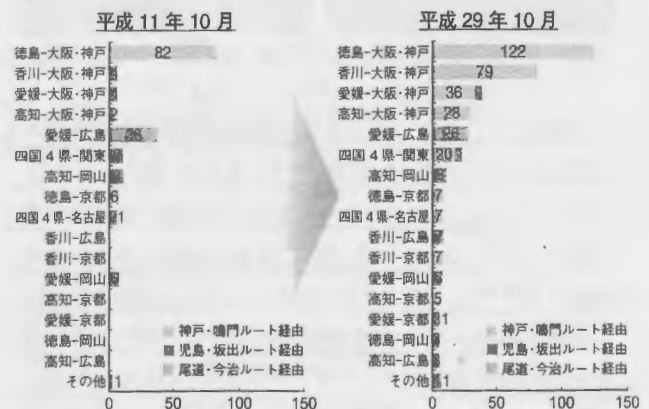


図-2 本州・四国間的高速バス発着地別日当たり往復便数

岡山県と香川県では、瀬戸大橋を利用した通勤・通学が拡大し、就業者・通学者数は瀬戸大橋開通前の約3.4倍に増加している。また、四国から岡山大学に入学する学生の割合は、瀬戸大橋開通前の10%程度から20%程度に増加し、香川大学への入学者は、近畿・中国地方出身者の割合が半数程度まで増加してきている。

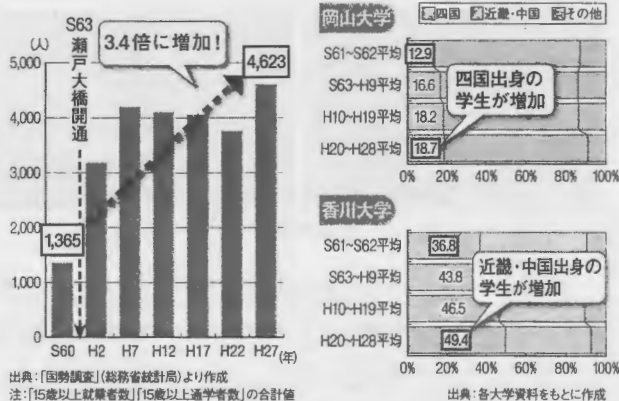


図-3 岡山県・香川県の就業・通学者数の推移

図-4 岡山大学・香川大学 入学学生出身地の変化

瀬戸内しまなみ海道（西瀬戸自動車道の愛称、以下、しまなみ海道）沿線在住の方を対象にしたアンケートでは、しまなみ海道を「週1~2回」以上利用する方の割合が全体の半分以上まで増え、利用頻度が年々増加している。利用目的は、通勤や買い物など日常生活での利用が多く、島々に住む方にとっては生活道路としても定着してきている。

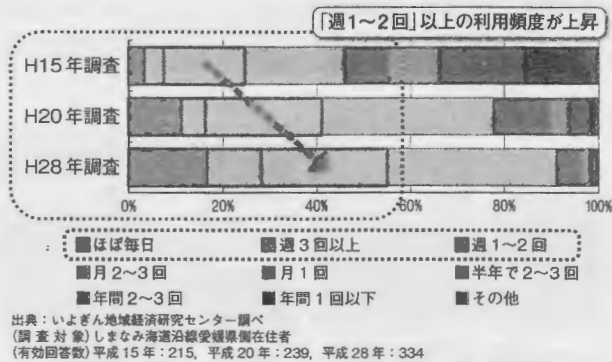


図-5 「しまなみ海道の利用頻度の変化」アンケート結果

## 2. 社会的責務としての災害への備え

東日本大震災では多数の命が奪われ、街並みとコミュニティが流され、多くの地域で人口減少が進んでいる。このような大きな災害が発生した際には、被害を最小限にすること、速やかな復興は、その後の地域の人口の維持や経済にとって極めて重要である。

「南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画」（平成29年6月、中央防災会議幹事会）で、「国は、被害が甚大と見込まれる地域に対して、全国から最大勢力の応援部隊を可能な限り早くと確に投入する必要がある」とされている。

発災後、各部隊が、被災地域に向かうため、本州四国連絡高速道路は緊急輸送ルートになっており、進出目標として、「広域進出拠点」、「進出拠点」が設定され、車両の駐車及び給油、隊員の休憩などの支援に特段の配慮を行うことになっている。

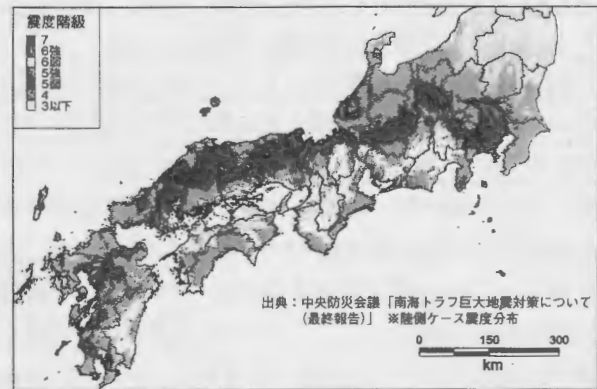


図-6 南海トラフ巨大地震による震度分布

この取り組みの一環として昨年8月に南海トラフ地震を想定した大規模地震時医療活動訓練が内閣府、警察庁、消防庁、厚生労働省（DMAT〈災害派遣医療チーム〉事務局含む）、国土交通省などが参加して実施された。参集拠点の1つである淡路サービスエリア（SA）でも、DMAT約40隊、約200人が参加し、参集、ロジスティック訓練が実施された。

また、当社では、南海トラフ地震など大規模災害発生時に、本州四国連絡高速道路が緊急輸送ルートとして円滑に機能するように、陸上自衛隊、国の機関、地方自治体など関係機関と協力協定を締結しており、合同防災訓練などを通じた連携強化を図っている。



写真-1 DMATの参集、ロジスティック訓練状況（淡路SA）



写真-2 陸上自衛隊第13旅団の訓練状況  
 <本州東部支隊海田町> 3,700人  
 さらに、大規模地震を想定して、橋梁の被害を最小限に抑え早期に交通路を確保するため、橋梁の耐震性能の向上を図る事業を進めている。明石海峡大橋、大鳴門橋の耐震補強工事は完了し、道路・鉄道併用橋である瀬戸大橋の耐震補強工事は、平成32年度に完了予定である。さら

に、平成38年度までに全ての橋梁の耐震補強工事の完了を目指している。

### 3. 地域との協働と地域貢献

本州四国間の交流を促進するため、スマートICの整備や渋滞対策を推進するとともに、地域と連携して瀬戸内地域の活性化、観光振興の取り組みを進めている。

明石海峡大橋の本州側アンカレイジわきの「橋の科学館」では、本州四国連絡橋の建設に使われた世界最高水準の架橋技術を展示、紹介している。空中には長さ40mの風洞模型、3D立体映像による明石海峡大橋などの建設記録の上映など海洋架橋技術の数々を体験することができる。平成30年4月から「明石海峡大橋のケーブル点検」、「橋樑を移動台車で点検しよう」、「コンクリート橋の打音点検」、「海峡を渡るサイクリング」などを体験できる360°VR体感コーナー」を提供している。



写真-3 360°VR体感コーナー



写真-4 明石海峡大橋のケーブル点検

「橋の科学館」では、これらの技術展示のほか夏休みに「いろいろな橋を作ろう」、「夏休み、調べてみよう 世界一の吊橋」など、小学生から中学生を対象とした自由研究教室を開催し、地域と密着した活動を行っている。



写真-5 橋の科学館を活用した自由研究教室と明石海峡大橋見学



また、参加者が年間1万人を超える「明石海峡大橋ブリッジワールド」をはじめ、「瀬戸大橋スカイツアー」、「大鳴門橋渦潮ウォーク」など本州四国連絡橋の建設技術や保全技術への理解を深めてもらうことを目的として、一般の方が普段立ち入ることのできない管理用施設や、海峡部の長大橋の塔頂などを体験していただくインフラツアーを実施している。これらのインフラツアーについて、ツアーを組み入れた旅行商品開発の推進、効果的なプロモーション活動の展開、ツアー提供機会の拡大など地域の観光客増加につながる取り組みも進めていく。



写真-6 明石海峡大橋ブリッジワールド



写真-7 瀬戸大橋スカイツアー



写真-8 大鳴門橋渦潮ウォーク



米紙ニューヨーク・タイムズが2019年に行くべき世界の旅行先52カ所を発表し、日本では唯一「瀬戸内の島々」が、「芸術と自然が調和する場所」として7位に選ばれた。また、しまなみ海道は、米CNNの世界7大サイクリングコースにも選ばれ、世界中のサイクリストに注目されている。しまなみ海道沿線のレンタサイクル貸出台数は、年間14万台を超え、約1割が海外からの利用者となっている。当社でも周遊観光のためのスタンプラリーなどを実施してきており、今後は、DMOなど幅広い観光関連事業者、自治体などとの連携のもと、自転車を活用した本州四国間の広域交流の活性化に貢献していく。また、淡路島では「アワイチ」と呼ばれるサイクリングルートも定着してきており、自転車を通じた地域の交流の広がりにも貢献していきたい。



写真-9 多々羅大橋とサイクリスト



写真-10 しまなみ海道スタンプラリー開催

明石海峡大橋、大鳴門橋、瀬戸大橋、新尾道大橋、来島海峡大橋ではライトアップも行っており、これらは、地域の観光資源としての役割も担っている。今後は、ビューポイントの選定・紹介、地域が主催する各種イベント、ツアーなどとの連携についても取り組んでいく。



写真-11 瀬戸大橋ライトアップ



写真-12 明石海峡大橋ライトアップ

淡路SA・与島PA・来島海峡SAなどでは眺望の素晴らしさをPRしていくとともに、お客様に快適にご利用いただけるよう、ベビーコーナーの整備などの子育て支援の取り組みやトイレの空調設備の整備などを順次実施する。また、地元の幅広い民間事業者、自治体などと協働した地域活性化イベントも展開して、地域とのふれあいの場としても活用されることを目指す。



写真-13 淡路SAからの眺望



写真-14 与島PAからの眺望



写真-15 来島海峡SAからの眺望



写真-16 瀬戸田PAでの産地直売

#### 4. 長大橋技術による社会貢献

長大橋の万全な維持管理のためアセットマネジメントにより計画的な予防保全を実施するとともに、管理技術の高度化により効率的・経済的な維持管理を目指している。

主塔点検ロボット、ドローンなどによる点検手法の検討、赤外線を用いた点検手法の高度化などにより効率的な点検を実施していく。また、膨大な量の点検結果などを効率的に評価するために点検データ、構造データ、気象データなどのビッグデータの活用やAIによる評価手法を検討し、維持管理の高度化を図っていく。



写真-17 主塔点検ロボット



写真-18 ドローンによる点検手法検討

吊橋の主ケーブルは最も重要な部材であり、これを腐食から守るためケーブル送気乾燥システムを開発・導入している。このシステムは、日本のみならず世界中の吊橋で標準的に使用されるようになってきている。更に、湿度の自動計測の促進や気密性を向上し、効率的・経済的なシステムを目指している。

塗替塗装は、長大橋修繕費の約半分を占めており、塗替塗装の技術開発はライフサイクルコストの縮減に大きく貢献する。このため、耐久性が高い省工程型塗料の規格化

を目指していく。さらに、近赤外線カメラによる塗膜損耗量の効率的な推定手法の開発など塗替時期の最適化のための技術開発を行っている。



図-7 赤外線サーモグラフィによる疲労き裂点検

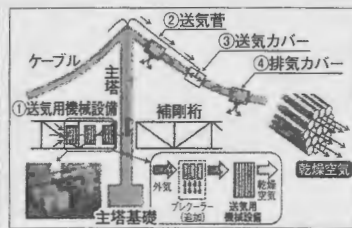


図-8 ケーブル送気乾燥システム



図-9 近赤外線カメラによる上塗塗膜厚の推定

このように、長大橋の建設、維持管理のために開発した技術により、国内外の長大橋建設・維持管理への技術支援、技術情報の交換、技術情報の発信に努め社会貢献していく。さらに「海外インフラ展開法」に基づき、長大橋技術の情報拠点として蓄積してきたノウハウや技術を活用し、民間事業者の海外展開を支援していく。

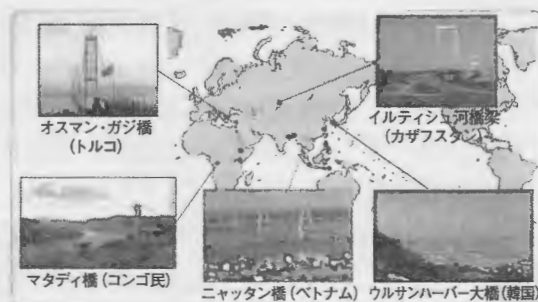


図-10 海外技術協力の実績

#### おわりに

当社は、前身の本州四国連絡橋公団から本州四国連絡高速道路の建設・管理を業務の目的としてきた。建設に係る債務の処理にあたっては、国民の皆様をはじめ、関係機関からの多大なご理解、ご協力をいただいた。少子高齢化、東京一極集中の進展、自然災害リスクの高まりのなかにあつて、瀬戸内地域では瀬戸内国際芸術祭、大阪万国博覧会、DMOによる新たな観光需要の創造など様々な取り組みが進められている。

3ルート開通20周年を迎え、瀬戸内地域の課題と取り組みを共有し、地域交流を促し、また、瀬戸内の景観形成で培ってきた地域とのつながりと技術を活かし、愛着と誇りのもてる地域づくりに貢献できる企業を目指していきたい。

近赤外線：赤外線通信(TVやエアコンのリモコンに使用)  
遠赤外線：電波に近い性質、温度が高く在れば放射量も多くなる。サーモグラフィに活用  
道路 2019.2 13

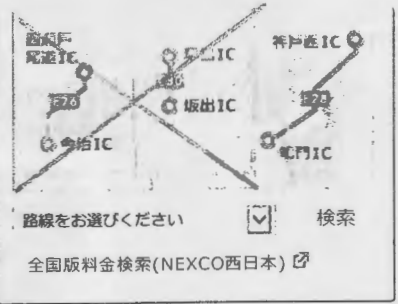
戸淡路鳴門自動車道(現金車(非ETC車)料金) | 料金・道路案内 | JB本四高速

中型車

単位(円)

6,740	6,480	5,190	4,830	4,530	4,060	3,700	3,390	3,190	410	300	神戸西
6,580	6,270	4,990	4,680	4,320	3,910	3,550	3,190	2,980	250	布施畑	410
6,430	6,170	4,830	4,530	4,170	3,750	3,390	3,090	2,880	重水	360	620
3,650	3,390	2,110	1,800	1,440	980	620	300	淡路	3,960	4,110	4,370
3,500	3,190	1,900	1,590	1,230	820	410	津浦	410	4,220	4,420	4,680
3,140	2,880	1,590	1,290	930	460	北浜	620	870	4,680	4,830	5,090
2,780	2,520	1,230	870	570	津名一宮	670	1,130	1,390	5,140	5,350	5,610
2,370	2,110	770	460	洲本	770	1,290	1,700	1,950	5,760	5,970	6,170
2,010	1,750	410	西淡三原	620	1,230	1,750	2,160	2,470	6,220	6,430	6,690
1,700	1,440	淡路島南	620	1,080	1,700	2,160	2,880	6,690	6,840	7,100	
360	鳴門北	1,950	2,420	2,860	3,450	3,960	4,420	4,680	8,490	8,640	8,900
鳴門	510	2,310	2,780	3,240	3,860	4,320	4,780	5,040	8,850	9,000	9,260

大型車



通行止め予想

異常気象等に伴う通行止め予想  
現在、異常気象等に伴う通行止めの予想はありません。

瀬戸中央自動車道(瀬戸大橋) 現金車(非ETC車)料金 | 料金・道路案内

現金車(非ETC車)料金 「中型車」 / 「大型車」

中型車

単位(円)

5,090	4,990	820	410	早島
4,780	4,680	510	水島	570
4,420	4,320	児島	670	1,080
-	坂出北	5,910	6,430	6,840
坂出	-	6,070	6,580	6,990

大型車

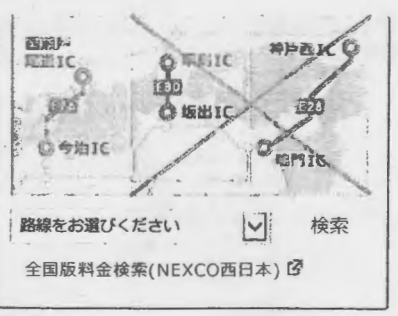
西瀬戸自動車道(瀬戸内しまなみ海道)(現金車(非ETC車)料金) | 料金・道路案内

中型車

単位(円)

5,800	5,600	-	3,490	2,980	2,570	-	1,590	-	1,130	360	西瀬戸尾道
5,550	5,350	-	3,240	2,730	2,320	-	1,340	-	870	向島	510
-	-	-	-	-	-	-	-	-	因島北	1,230	1,540
4,670	4,470	-	2,360	1,850	1,440	-	460	因島南	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	生口島北	620	1,850	2,160
4,210	4,010	-	1,900	1,390	980	生口島南	-	-	-	-	-
3,390	3,190	-	1,080	510	大三島	1,340	-	1,960	-	3,190	3,500
2,980	2,780	-	670	伯方島	720	1,900	-	2,520	-	3,750	4,060
-	-	-	大島北	870	1,490	2,620	-	3,240	-	4,470	4,780
2,310	2,110	大島南	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	今治北	2,880	-	3,750	4,370	5,500	-	6,120	-	7,350	7,660
今治	-	3,140	-	4,010	4,630	5,760	-	6,380	-	7,610	7,920

大型車



通行止め予想

異常気象等に伴う通行止め予想  
現在、異常気象等に伴う通行止めの予想はありません。

# 統計資料

## 全国高速道路通行台数・全線平均交通量 (平成30年9月)

道路名	通行台数		全線平均交通量		道路名	通行台数		全線平均交通量			
	日平均(台)	前年比(%)	日平均(台)	前年比(%)		日平均(台)	前年比(%)	日平均(台)	前年比(%)		
東名高速道路	東京～小牧	409,272	97.9	57,820	98.9	東海北陸自動車道	一宮J～小矢部東本線	54,789	96.0	15,256	97.0
新東名高速道路	海老名南J～厚木南	48,591	110.2	3,289	-	第二東名自動車道	豊田東J～東海合併	135,824	99.3	85,951	100.9
	御殿場J～豊田東J			52,062	106.0	第二名神自動車道	飛島第二～四日市J	59,536	100.9	73,045	101.8
名神高速道路	小牧～西宮	254,339	97.6	63,170	103.0	伊勢自動車道	伊勢関～伊勢本線	31,876	97.4	22,848	98.1
新名神高速道路	四日市J～新四日市J	38,578	169.7	5,853	112.6	紀勢自動車道	勢和多気～大紀本線	4,588	98.4	7,416	99.5
	亀山J～草津J			49,122	103.6	阪和自動車道	堺本線～岸和田和泉	192,167	97.6	22,172	95.3
	城陽J～八幡京田辺			11,154	132.1		岸和田和泉～有田			31,701	95.4
	高槻J～神戸J			31,225	-		御坊南～南紀田辺本線			13,796	99.4
中央自動車道	八王子本線～河口湖	250,641	98.7	43,683	98.8	関西空港自動車道	泉佐野J～泉佐野南J	8,437	86.0	15,214	84.5
	大月J～小牧J			34,256	99.9	西名阪自動車道	松原J～天理	138,003	96.5	-	-
	高井戸本線～八王子本線			75,990	98.6	近畿自動車道	吹田J～松原	163,360	100.0	-	-
長野自動車道	岡谷J～更埴J	46,971	96.3	33,271	97.5	舞鶴若狭自動車道	吉川J～敦賀J	26,292	100.6	11,039	104.8
東北自動車道	浦和本線～青森	330,644	99.7	34,949	100.4	中国自動車道	吹田J～下関	135,317	97.8	16,021	95.8
八戸自動車道	安代J～八戸	7,654	98.7	7,044	98.3	播磨自動車道	播磨J～播磨新宮	656	97.6	1,270	97.4
青森自動車道	青森中央本線～青森J	4,464	101.1	4,561	101.9	岡山自動車道	北房J～岡山総社	1,561	105.0	9,568	97.0
秋田自動車道	北上J～秋田北	21,593	100.5	8,046	101.8	山陽自動車道	神戸J～廿日市J	254,633	105.6	44,119	107.6
日本海東北自動車道	河辺J～秋田空港本線	27,626	99.2	2,713	96.3		大竹J～山口J			33,363	109.7
	新潟中央J～中条本線			11,115	99.8		下関J～宇部本線			7,483	108.7
	昭和男鹿半島～琴丘森岳			5,602	102.7	広島自動車道	広島北～広島J	24,665	101.9	20,161	102.6
	鶴岡J本線～酒田みなと			3,170	99.1	米子自動車道	落合J～米子	7,625	102.2	8,483	103.2
釜石自動車道	花巻J～花巻空港本線	2,675	102.9	3,933	99.6	浜田自動車道	千代田J～浜田	5,201	100.9	3,800	101.8
山形自動車道	村田J～西川本線	26,335	96.2	11,228	94.5	松江自動車道	宍道J～三刀屋木次	2,698	101.9	5,435	102.5
	湯殿山～鶴岡J			4,500	97.6	山陰自動車道	松江玉造～斐川本線	12,641	102.1	9,118	102.6
東北中央自動車道	山形上山～東根	5,581	104.7	4,084	106.1	高松自動車道	鳴門本線～津田東	57,882	81.2	15,069	95.5
磐越自動車道	いわきJ～新潟中央	21,927	93.2	9,952	92.1		津田東～高松東			17,578	97.9
札幌自動車道	札幌西～小樽	53,978	92.1	16,087	92.5		高松東～川之江J			24,794	99.7
道東自動車道	千歳恵庭J～本別・足寄	10,925	78.5	6,723	91.4	松山自動車道	川之江J～大洲	50,111	102.3	18,717	102.4
道央自動車道	札幌南本線～大沼公園本線	120,854	92.1	10,086	91.9	高知自動車道	川之江J～須崎東	24,254	99.3	12,355	96.3
	札幌本線～土別釧路			12,332	91.0	徳島自動車道	鳴門J～川之江東J	11,658	100.5	8,032	104.6
常磐自動車道	三郷～亘理	207,481	95.6	30,479	96.3	関門橋	下関～門司	20,046	107.8	37,816	108.4
東関東自動車道	湾岸市川～潮来	197,873	100.3	56,284	100.8	九州自動車道	門司～えびの	249,351	100.4	44,310	102.6
	茨城町J～銚田			3,020	98.4		えびのJ～鹿児島本線			19,772	102.5
新空港自動車道	成田～新空港	6,823	108.2	13,167	108.7	宮崎自動車道	えびの～宮崎	17,181	106.3	11,616	106.4
館山自動車道	千葉南～富津竹岡	78,653	100.5	26,777	102.0	長崎自動車道	鳥栖第二～長崎	61,203	103.5	26,451	102.3
東京外環自動車道	大泉～高谷J	196,412	128.6	63,722	103.4	大分自動車道	鳥栖J～大分米良	51,627	98.6	19,396	101.5
関越自動車道	練馬～長岡	215,039	98.7	43,488	99.7	東九州自動車道	大分米良～佐伯	61,401	101.6	11,931	95.3
北関東自動車道	高崎J～岩舟J	76,371	99.9	32,376	100.9		門川本線～清武南本線			7,487	104.8
	栃木都賀J～水戸南			20,667	100.2		末吉財部～隼人東			8,791	103.5
上信越自動車道	藤岡J～上越J	65,420	98.9	25,375	101.5		北九州J～みやこ豊津			16,314	104.9
北陸自動車道	米原J～新潟中央J	166,333	100.3	26,078	101.4		椎田南～宇佐			9,487	107.0
中部横断自動車道	双葉J～富士川本線	3,468	105.2	3,558	106.0	沖縄自動車道	那覇～許田	99,521	91.5	35,975	93.1
東名阪自動車道	名古屋西～亀山南J	91,533	97.0	72,264	99.4	合計		5,130,640	99.8		
名古屋第二環状自動車道	名古屋西J～名古屋南J	178,484	99.2	-	-						

○通行台数は1回の利用につき1台とカウントしたインターチェンジ出口(料金所)の取扱交通量  
 ○全線平均交通量は各区间交通量を道路1本に平均した交通量(IC間距離による荷重平均値)。均一料金区間は全線平均交通量の集計が不可能なため記載していない。※印は均一料金区間を除いて集計

### 本州四国連絡道路通行台数 (平成30年9月)

道路名	通行台数	
	日平均(台)	前年比(%)
神戸淡路鳴門自動車道	神戸西～鳴門	54,605 100.9
瀬戸中央自動車道	早島～坂出	28,776 102.2
西瀬戸自動車道	西瀬戸尾道～今治	31,897 99.3

### 都市高速道路通行台数 (平成30年9月)

道路名	通行台数	
	日平均(台)	前年比(%)
首都高速道路	(100)	1,005,252 98.7
阪神高速道路	(73)	736,681 96.8
名古屋高速道路	(34)	340,315 99.4
広島高速道路	(7)	70,191 98.4
福岡高速道路	(19)	188,589 99.2
北九州高速道路	(9)	91,045 98.4

{ 福岡:北九州の3割、大阪の4割、名古屋の8割、広島の4割 }